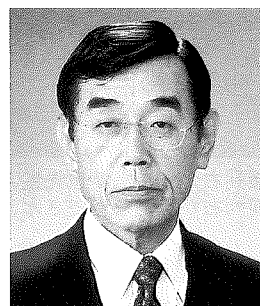


第 14 号  
 平成 20 年 11 月 30 日  
 発行 岡山白陵同窓会  
 〒709-0715  
 岡山県赤磐市勢力 588  
 TEL. 086(995)1255

### ご挨拶

校長 山本隆文



同窓会諸氏におかれましては、ますますご盛栄にてご活躍のことと拝察申し上げます。

先日、「松下政経塾」元塾頭の上甲晃先生を招いて、秋恒例の文化講演会を行いました。先生によると、『29年前の松下政経塾一期生募集には930名の若者が殺到し、わずか23名のみを合格とした。創設者の松下幸之助氏自らが選考にあたり、その選考基準は「愛嬌」と「運」であった』そうです。経営の神様と称され、人間観察の達人である松下幸之助氏らしく、人間的魅力を意味する「愛嬌」を基準として、「将来の日本国を担う人材育成」を理念とする松下政経塾の塾生を選考されたと聞いて、なるほどと思った次第であります。

岡山白陵におきましても、人間力と知力は両者相俟ってはじめて、将

来のリーダーたるにふさわしい人材の基礎となりうるという信念のもと、昼夜を問わず生徒諸君と文字通り体当たりの教育活動を行っているところでございます。

今夏、部活動では、デイベート、演劇、柔道が全国大会出場を果たした他、硬式野球部が9年ぶりに1回戦勝利を収め、音楽部、図書部、バレーボール部、バスケットボール部等々が活発に活動するなど大いに盛り上がり学校の活性化に一役買ってくれました。人間力育成のうえでも、長期的に見た学校の底力育成の面からも、部活動の果たす役割は大きいと考えております。

さて、ポイントとなる本校の今春の大学進学は、国公立大医学部に関しては34名、うち岡山大医学部へは15名合格（現役9、浪人6）と優秀な成績を収めることができましたが、東京大学に関しては9名（現役8、浪人1）と期待を大きく下回る結果となってしまいました。4月以降、学校経営の焦点を「捲土重来を期し、期待に応える」という、この一点にあてて、全校あげて頑張っておるところでございます。今後とも温かく母校を見守っていただくとお願い申し上げます。

## 27期を語ろう

今号特別企画は「27期を語ろう」。

母校を訪問中の同窓生の阿部圭史さん、久保夕樹さん、そして学年団の小野田信一郎先生、後藤文昭先生、長野恭也先生にお話をうかがいました。

### 27期生とは？

—さっそくですが、27期生は、どのような学年だったんでしょか？

小野田「子どもたちが優しく、素直で、先生たちもみんな素直で…(笑)いい学年でした。」

長野「ドラマティックな学年だったと思いますね。というのは、まあ、修学旅行ですよね。修学旅行がどんな場所が変わっていったというね。最初はまずロンドンから始まりましてね、でも、ロンドンが9・11の関係で、ちょっと難しいということになりました、中国に変わりましたね。で、小野田先生が…。」

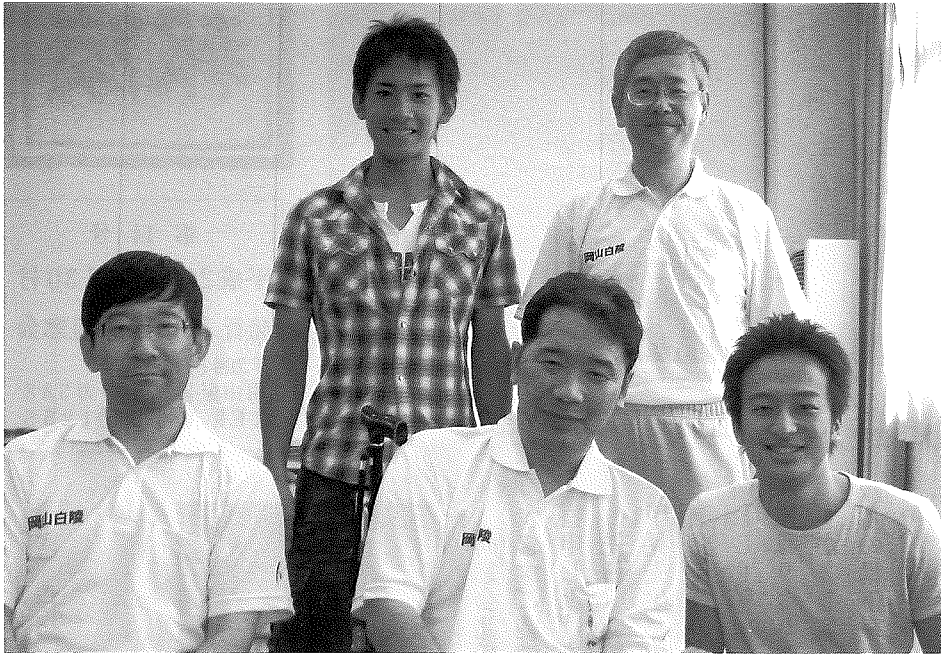
小野田「中国に下見に行ったんです。楽しい旅でした。」

長野「それがSARSでそこもダメ。」  
小野田「帰ってくるときはみんなマスクしてたんだ。」

長野「だから、私、しばらくは小野田先生に近づくの控えましたもん。」  
一同(笑)

### 波瀾万丈の修学旅行

長野「柔道場でね、小野田先生が生徒を集めて話をされたときのことは今でも覚えてますよ。ある女の子が



後列右から長野恭也先生、久保夕樹さん、  
前列右から阿部圭史さん、小野田信一郎先生、後藤文昭先生

泣きながら『なんでなんですか？』  
ってね。校長室まで行ったからね。だから、あの時は本当に小野田先生、苦労されたと思いますよ。」

小野田「いや、その分ね、みんないい旅行にしようという思いがあったから、よかつたんですよ。」

長野「そうですね。あんなにいい北海道旅行はなかつたんじゃないかなあと思いますね。北海道は何度も行きましたけれどね。」

後藤「今までだったら北海道をバスでいろいろ回るみたいな旅行だったのが、屈斜路プリンスで、連泊で、川下りをやったりね。釧路湿原を歩いたりとか。知床に行ったりとかして。滞在型みたいなね。ああいうのができたのは多分後にも先にもこの学年だけだろうと思いますね。」

小野田「長野先

生ね、毎日俳句を作ってくれたんですよ。川柳か俳句かわからないやつをね(笑)、石田先生と二人で。HPに毎日ね、それや写真とかとつたやつをね、載せたんですよ。それをやったのがうちが初めての学年で。僕がやつたんですけれどね。」

長野「一日が終わったらみんなで小野田先生の部屋に行つてね。」

小野田「今日あったことは…とか言いながら写真出して、話し合いして、文章決めて、あれ楽しかったです。」

後藤「班行動とかも面白かったですよ。『僕がソフトクリーム禁止や』って言っているのに、もう一人の国語のN先生が食べていて、『先生、N先生が食べてますよ』と…全然連携がとれてない(笑)。」

長野「(笑)いや、あれは丹頂ヅル公園なんです。あそこのソフトクリームはすごくおいしくてね。生徒が食べてないっていうから、『おいしいんやぞ、ここは』っていったら、社会科の某G先生がそこで買い食いをしてはいけないと言ったという。後で知りましてね。(笑)」

後藤「指示がぐちゃぐちゃでしたね。(笑)」

—阿部君は食べましたか？  
阿部「(笑いながら)そうですね、多分食べたんじゃないですかね。釧路行きましたしね。」

後藤「一緒に川下りしたもんなあ。」  
阿部「楽しかったですよねえ、あれ。」  
後藤「うん、面白かったなあ。」

久保「坂井先生とかは植物見て回って気がするんですよ。」  
後藤「知床かな？」

久保「これがトリカブトだよ、みたいな。」

一同(爆笑)

阿部「でも、北海道旅行楽しかったですからね、そのせいもあって、僕も北海道大学に行きましたから。」

### 卒業式

後藤「それから後は、卒業式の歌がよかったね。いや、毎年いんだけど、印象に残った年ですね。やっぱりね、お互いの、教員の側と生徒の側の気持ちに完全にばちつとかみあっていったというね。」

阿部「そうですね、みんな一生懸命歌いましたからね。」

久保「練習したしね。声出して。」

### 怖かった学年主任

長野「でも、よく怒られてましたよ、生徒は。ほんつとにね……小野田先生から。」

一同(笑)

小野田「活きが良かったんですね。」

敵味方に分かれるからみんなまとまるんですね(笑)。そのために僕がいる、と(笑)。……でも、僕が今後悔しているのは、江田島に行つてキャンプファイアーをしなかったんですよ。」

一同「ああ。」

小野田「誰かが、ある先生の車にケント・デリカットにちなんで落書きして。」

阿部「Deliciaにつけたんですね、マジックで。(笑)」

小野田「そう、マジックで。それを誰がやったんか言つてこい、と言つたんですよ。言つてこなければもうキャンプファイアーせんつて言つてね。でも、誰も言つてこなかったんですよ。結局キャンプファイアーせずじまいで。」

「かなり厳しく怒られたんですね。」

久保「いやあ、もう、『部屋から出るな!』みたいな感じでしたね、やった人が名乗り出るまで。」

阿部「小野田先生怖かったですね。よく部屋に連れて行かれて……(笑)」

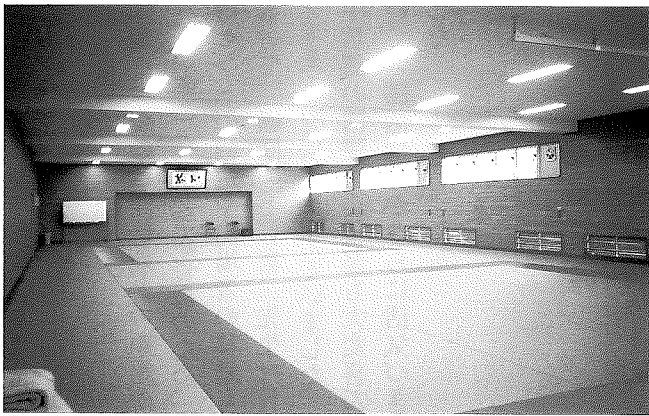
一同「(テープが)回ってる回ってる(笑)」

阿部「愛のムチでしたね。当時は怖いと思つてましたけど、今から思うと、ものすごくいい思い出ですよ。」

### 柔道場での学年集会

長野「僕ね、いろんな学年行くんですけど、27期生は柔道場を最もよく使つた学年やなあと思うんですよ。あの柔道場で学年集会をして、いろんな話がありましたよね。さっきの北海道の話もそうですし、生徒指導の話もそうですし、森本先生が話をされて涙を流されたことが……」

小野田「森本先生が泣きながら教える話をされたんですよ。柔道場で。今でも思いだすだけでじんときますけど。」



長野「いろんな思い出がつまっていますよ。で、学年団も解散するときは

そこで全員集めてね、一人一人担当者から話をしていって。やっぱり最後もあそこだったんやなあ、というのが残つてますね。」

阿部「学年集会といえば柔道場でしたもんね。」

### 岡山白陵とは

「今日はいろんな先生にお会いになりましたか。」

阿部「そうですね。けっこうまわつて。いろんな話をしました。ぼく、結構休みの期間、春やら夏やら来てるんで、またきましたって感じですけど(笑)。彼(久保さん)が久々だったんで」

久保「僕は2年ぶりだったので。」

「でもそうやって何度でも来たくありませんか。」

阿部「そうですね、……本当にこの学校に来て、よかったですよ。」

「今日はどうもありがとうございます。」

突然のインタビューのお願いに、最初は少しかしこまった様子の皆さんでしたが、いろんな思い出が飛び出すにつれ、表情もすっかり和やかに。濃密な時間を過ごしてきた者同士ならではの空間に圧倒されるようでした。

# 第8回全国中学校総合文化祭青森大会(弘前大会)

## 舞台発表「演劇部門」

岡山白陵中学校  
(岡山県)

平成 20 年 8 月 20・21 日  
於 弘前文化センター

\*演劇部\*

### 在校生の活躍

今年も、多くの在校生がさまざまな場面で活躍しました。運動部は中学柔道部が全国大会に出場したのを筆頭に、また文化部も全国大会出場の演劇部や岡山県吹奏楽コンクール銀賞入賞の音楽部など、華々しい活躍です。その他にも生物チャレンジで銀賞に入賞した生徒も。すべてを紹介したいところですが、今回は3つの活動をとりあげます。



(本番後衣装にて)

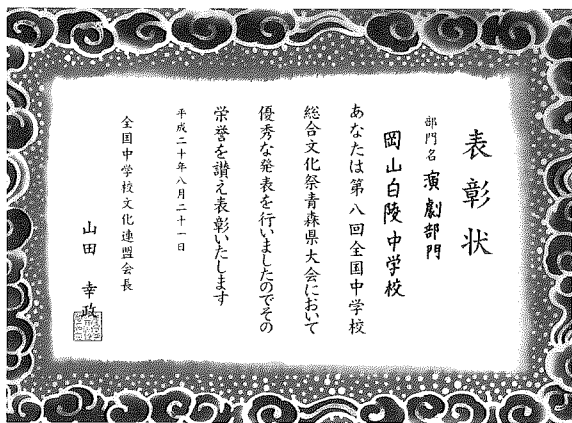
演劇部は、97年に演劇同好会から演劇部となり、活発な活動をしてきました。そして今回、中学演劇部が、岡山県大会で最優秀賞を受賞し、青森県弘前市で行われた「第8回全国中学校総合文化祭青森大会」に出場しました！

演目は越智優作、岡山白陵中学校演劇部潤色の「夏芙蓉―岡山白陵中学校―」。

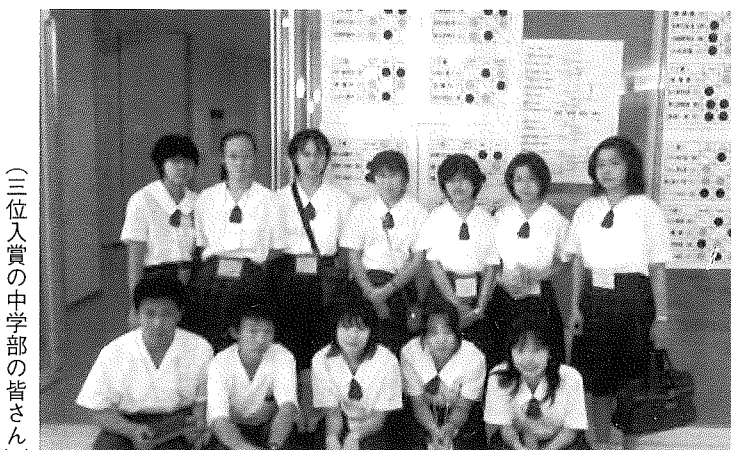
交通事故で友だちを亡くした主人公が、卒業式の後学校に来て、悲しみを乗り越えようとする、女の子の心情と友情の話を、等身大の姿で演じました。

大変だったのは開催地との距離が離れていること。大会が青森のため、舞台セットの輸送や出場者の移動も一苦労で、顧問の毛谷裕二先生は行程を考えるのに頭を抱えていました。

中学部の活躍を高校部も大変喜んでいて、部活全体がさらに活気づきました。



青森のねぶたをイメージした表彰状



(三位入賞の中学部の皆さん)

\*有志デイベート\*

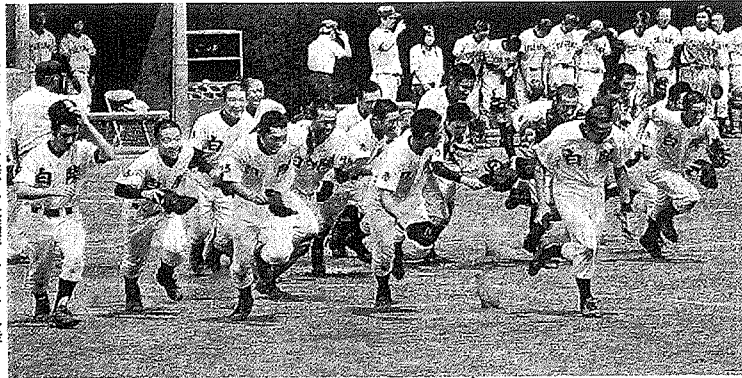
今年の論題は中学が「日本は中学生以下の携帯電話の使用を禁止すべきである。是か非か」、高校が「日本は労働者派遣を禁止すべきである。是か非か」。去年の全国大会で、中学部が全国3位となり、今年も大きな期待がよせられていました。



\* 野球部 \*

# 歓 白陵 9年ぶり白星

## 津山痛い守備の乱れ



9年ぶりに勝利を挙げ、笑顔でスタンドへ走り出す白陵ナイン（エイコン）

(山陽新聞社提供)

▽1回戦  
白陵 1013100007  
津山高専 0101100003

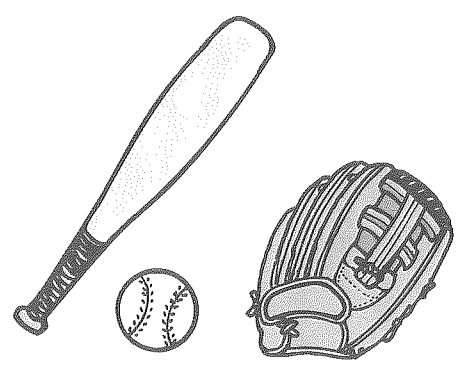
【評】序盤から好機を逃さず得点を重ねた白陵が津山高専を破った。白陵は一回一死二塁、津山高専は6失策と守備が乱れ、最後までリズムを先制。四回には一死二塁から宇野の右翼線二塁打などで3点を奪い、突き放した。

「先制点が入ったことで、選手たちが伸び伸びプレーできた」。9年ぶりとなる夏1勝を挙げた白陵の花田監督は、満面の笑みでナインの頑張りをたたえた。守備に不安があり「初回からミスして自信を失わないよう」に（花田監督）と先攻を演じたことが奏功。先頭の近藤が敵方で出塁、犠打で一死二塁とした後、清水が左翼線二塁打を打ち、あっという間に先制点を奪った。「狙っていた外角の直球。おれでチームが勢いづいた」と清水はうれしそうに汗をぬぐった。

「エラー」絡みの失点で、気持ちを取り替えられなかった（数木監督）という津山高専とは対照的に、1、2年生主体の白陵は攻守に思い切ったプレーを見せた。打線は敵突などで得た好機に智美に加点し、課題だった金本は「勝利に向かって、チームが一つになれた」と胸を張った。試合後、スタンドの応援団と一緒に大声で校歌を斉唱した選手たち。2安打2打点と活躍した森は勝って歌う校歌は最高。この気分をもう一度味わうと創部31年目で初となる夏2勝に自信をのぞかせた。（橋本直樹）

## 先制点入り勢い

ムに乗れなかった。（橋本直樹）



夏の甲子園に向けての地区予選で前回1勝したのは9年前。その時は初の1勝で、新聞にも「初勝利」という文字が躍りました。今回は、その時以来、二度目の勝利です。スタンドに駆けつけた沢山の応援団も、みなで歓喜に酔いました。2回戦の関西戦は力の差、というところもありましたが、今回の1勝は在校生にとって貴重な経験となりました。何よりも次につながる大きな力を得たことでしょう。なお、9月に行われた秋の地区大会でも善戦してくれました。今後の野球部の活躍が楽しみです。ますます野球部から目が離せなくなりそうです！

その期待に応えるように、中学部・高校部ともに、中国・四国大会を順調に勝ちあがり、全国大会に出場しました。そして、中学部が去年に引き続き、二年連続全国3位という快挙をなしとげました！  
さらに今年は、坂田好保先生が「最優秀指導者賞」を受賞されました。坂田先生は、「生徒たちが、私の思い以上に頑張ってくれた。それが3位という結果につながった。ディベートを通して生徒たちが身につけた能力は、実社会においても必ず活かされる。」と、メンバーの頑張りをねぎらい、また今後を期待していらっしやいました。



(全国大会出場！高校部の皆さん)

# 同窓会名簿完成!

同窓会名簿がいよいよ完成しました。ご協力、ありがとうございます。既にお申し込み下さっている方のお手許には新しい名簿が届いている頃かと思いますが、申し込みはしていないという方でもまだご注文いただけます。小野高速印刷(株)のフリーダイヤルからどうぞ。☎0120-22-5085

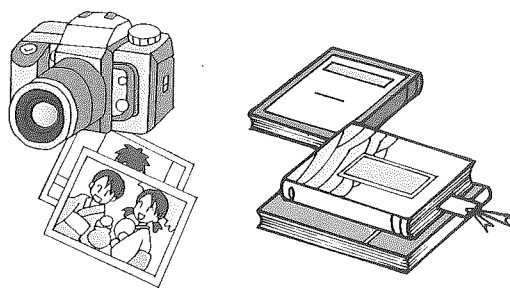
## ・お断りとお願い

前号でもお知らせしましたが、今回から委託する印刷会社を変更しました。それと共に名簿作成の方法も従来と大きく変更しております。結果、一部の同窓生には戸惑われた方もおられるようですので、改めてお断りとお願いを申し上げます。

今回の名簿作成に関しましては小野高速印刷株式会社に委託しております。またより正確なデータ記載のため、葉書を返送いただけなかった方には小野高速印刷株式会社から電話で連絡を差し上げました。ただ、この機に乗じて別会社が電話で個人情報聞き出そうとしたケースもあるようです。岡山白陵高校同窓会が正式に委託したのは小野高速印刷株式会社ですので、お間違えのないように、不審な電話にはどうぞくれぐれも注意下さい。

## 情報をお寄せ下さい!

- ・同窓会の模様 (いつ開催されたか、写真など)
- ・同窓会会員の方の近況
- ・同窓生執筆の本
- ・伝言板 (同窓生への連絡)
- ・同窓会報に寄せるコラム etc.



## 同窓会を活発にしましょう!!

### 職員の変動

#### ○御退職

稲井 聚先生(英) H13・4・20・3  
 谷 晋一郎先生(数) H11・4・20・3  
 福原 伸光先生(数) H18・4・20・3  
 相原 智紀先生(社) H11・4・20・3  
 山崎 美穂先生(事) H17・4・20・3  
 住田 浩二先生(寮) H8・4・20・3

#### ○御着任

九内 育恵先生(英) H20・4・4  
 中本 俊昭先生(数) H20・4・4  
 高木 聡先生(数) H20・4・4  
 山地 健太先生(数) H20・4・4  
 久保 綾加先生(数) H20・4・4  
 東山 恵美先生(社) H20・4・4  
 岡本 光世先生(事) H20・4・4  
 鍛本 昭先生(寮) H20・4・4



### ◆訂正とお詫び◆

前号で田野勝彦先生の「岡白卒のプライドを」と題されました特別寄稿を掲載しましたが、その中で、本来「リーダーとしての重要課題は各自の情熱と人間性の涵養であろう」とあるべきところ、誤って「延長であろう」と載せてしまい、文意の通らない箇所が発生してしまいました。田野先生には大変失礼いたしました。ここに訂正させていただきますとともに、謹んでお詫び申し上げます。

### ◆編集後記◆

校内幹事が4人となってから、なんとなく、役割分担のようなものができてきた。総括、会報担当、HP担当、名簿係(イレギュラーのため2人が兼務)というように。ではこれまでは? というところ、最初は1人で全てをやっていたのだ。2人になり、そして4人になり、人数が増えることができるようになってくる。ありがたいことである。人数が多いというのはそれだけで大きな力なのかもしれない。岡山白陵高校同窓会も4300人を超える大所帯となった。これからもっと大きな力を発揮して、活性化していけたら...と願っている。